

プロジェクト名：運動環境の違いによる運動パフォーマンスの比較検討

プロジェクト代表者：菊原伸郎（教育学部・准教授）

1 研究目的

現在、日本ではサッカー競技を中心に運動する環境面に変化が生じてきている。本来サッカー競技は天然の芝生グラウンドで行われるべき競技であるが、日本では芝生の維持管理等のコストの問題により土のグラウンドが主として使用されてきた経緯がある。

しかしながら、昨今では運動者の安全面の確保や技術・戦術力向上を保障していく観点から、大学や私立の学校法人を中心に土のグラウンドから人工芝のグラウンドへと運動環境の整備が進められている現状がある。

そこで、本プロジェクト研究では、運動環境の違いによる運動パフォーマンスをビデオカメラと動作分析ソフトを用いて比較検討し、運動環境の変化に対し、指導者が運動者に対してより有効なコーチングができるための一助を提示していくことが目的である。

2 研究方法

大学サッカー部に所属するサッカー経験者3名を被験者として、3つの異なる運動環境において同じ運動パフォーマンスを映像に収め、動作分析ソフトによる分析を行い比較検討する。また、被験者には、各運動環境における運動パフォーマンスを発揮した際にインタビューを行い、運動者の動感意識のデータとして併せて分析資料とする。

運動パフォーマンスは、次のとおりである。

- 1) ドリブル
 - ① 直線的ドリブル
 - ② 方向転換ドリブル
- 2) キック
 - ① インステップキック
 - ② インサイドキック

3 研究状況

本研究方法における運動パフォーマンスの選定において、テストを繰り返し行っている状況で基礎的データを揃えている段階である。

9月から11月の間で、天然芝グラウンド、人工芝グラウンド、土のグラウンドにおいて確定した運動パフォーマンスによるデータの収集および分析を行い、研究成果をまとめていく。